

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270500457		
法人名	有限会社マエダ商事		
事業所名	うめたグループホーム		
所在地	〒037-0022 青森県五所川原市大字梅田字福浦475-13		
自己評価作成日	平成26年10月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成26年11月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>* 併設されている、デイサービスの祭りや保育園の行事に参加、園児と地域の方々と遠足に行ったり、ホームの夏祭りに、地域の方々、ご家族様に参加していただき交流を深めている。 * ホームの畑作りや草取り、近くの畑に野菜の収穫に行き、収穫したものを一緒に調理する等、生活支援に努めている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>隣接に保育園、ふれあいセンター(温泉)等あり、お祭りや運動会など、季節に合わせ知人や園児との交流が定期的に行われ、利用者の表情も穏やかである。理念に掲げている地域との関係・利用者個人に合わせたケアが実施されており、地域資源の活用、顔なじみの関係性が築かれている。災害対策においては、地域住民の理解のもと協力体制が確立している。職員は利用者個々の性格や生活習慣の理解に努め、業務にあたっており、職員の話し合いが状況に合わせて行われ、意見を言える・取り入れる関係性があり、利用者中心の対応となっている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の尊厳と介護の目的、地域とのかかわりを示した理念をホールに掲示し、職員皆が共有実践できるように確認しあっている。	地域との関係性、利用者に合わせた理念の見直しが行われている。誰でもいつでも見えるように、ホールに理念を掲げ、常に確認できるようにしている。新入社員には理念の説明を行い、実践できるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム夏祭りに招待したり、保育園行事に参加する等、地域との交流を深めている。また、近くの美容院、利用していた床屋さんに来ていただき、以前からの関わりを続けられるように努めている。	併設されている保育園との交流が常に行われている。また、地域の美容院や近所の野菜販売所を利用している。散歩の行き帰りに、近所の人へ声を掛けたり、掛けられたりと地域との関係性が維持されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で、資料を用いて説明したり、家族様の実体験を話してもらうことで、様々な意見を聞き理解を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では毎回、状況・行事・避難訓練の報告をし、意見やサービス向上に生かせるようにしている。	二か月に一回開催され、行政職員、民生委員、町内会長、デイサービス職員、利用者家族代表が参加している。防災協力依頼、外部評価の報告、地域行事などの話し合い・報告等が行われ、家族にも認知症の実体験を話して頂き、地域の方にも認知症の理解を深めて頂いている。不参加者には、議事録を配布している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者が毎回運営推進会議に出席し、情報の他、意見や助言をいただいている。また、電話や訪問で疑問点等、相談している。	月に一回窓口を訪問し、情報交換、疑問点、サービス内容や料金等の変更等を報告・相談を行い、協力関係が維持されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が身体拘束について、いつでも資料を確認し、身体拘束のないケアに取り組んでいる。やむを得ず行う場合は、理由と期間、方法、経過の記録を残すようにし、家族にも説明を行い、同意をいただいている。	夜間以外は施錠しておらず、外出希望の利用者に対しては、意思を確認し対応が行われている。身体拘束マニュアルがあり、常に確認できる状態にある。職員同士身体拘束について声掛けできる環境にあり、身体拘束と思われる言葉使いなどに気配りがされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待に関する資料を用いて申し送りや、会議の場で話し合う機会を持ち、自分の言動を振り返るようことで、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料を確認し、制度を利用している入居者の利用の状況を会議等で説明報告している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を用いて、その都度疑問や不安がないか確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置の他、面会時に要望や意見を述べられるように声を掛けている。また、入居者とのコミュニケーション時、意見や要望を聞き、その都度職員で話し合っている。	苦情受付窓口は重要事項説明書に記され、入居時には本人・家族に説明が行われている。職員は家族面会の際に要望・意見を確認し意識して業務にあたっている。又、その意見を運営会議で報告し業務に反映する体制が整っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議、またはミーティングで意見や提案の検討をしている。	管理者は職員一人一人の状況を見極め職員との話し合いの場(個別面談)を設けて、話しやすい環境を整えている。又、会議や申し送りの場で職員の意見を確認検討し、業務に反映できるように取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の勤務の状況や、現場の状況を把握し、個々の能力が生かせるように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の報告書と資料を用いて、職員全員が勉強できるように機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修会やホーム訪問等で交流を持ち、サービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用希望の本人、家族と面談し、要望や不安を傾聴し、安心できるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望や不安を言葉かけを心がけ、話を傾聴し信頼関係づくりをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の話を聞き、状態を確認し、必要な支援把握に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者さまから学び、アドバイスをいただく等、生活全般共に生活するうえで、より良い関係が築けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様からの意見や要望をくみ取り、一緒に支えていける関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の状況や体調に考慮し、支援に努めている。また家族さまに、行事の参加をお願いし協力していただいている。	通い慣れた美容院に外出したり、家族が遠方で対応できない墓参りに連れて行く体制があり、馴染みの人や場所との関係性が途切れないよう関係性の維持に努めている。又、本人が安全に外出できるよう家族・職員の協力体制の取り組みも行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で過ごせる場所へ声掛け誘導し、交流できるように配慮している。また、関係の変化にも対応できるよう、観察、見守りしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後の生活や状況等、必要に応じて支援できるようにし、これまでの関係性を大事にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	状態と言動観察。本人の要望把握できるように、心がけている。変化にも対応できるように、その都度話し合い、家族とも話検している。	日常業務において利用者に寄り添うケアの実践が行われている。利用者と職員の会話や利用者同士の会話の中からその人が今、求めている事を読み取り、思いや意向の把握に努め職員間で話し合い、対応策が検討されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、関係者から情報や要望を聞き、生活歴や状態を把握することで、その人に合った生活が送れるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	情報や本人との会話、ホームでの過ごし方から、本人の状態やできる力を見極め、支援につなげている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議や、日々の申し送りで話し合い、家族の要望、本人の要望等を話し合うことで、現在必要な介護計画を作成している。	3ヶ月に一回、介護計画の見直しが行われている。面会の際、家族・本人の意向やモニタリングを行い、現状を確認している。本人・家族・職員の意見も含め必要な関係者と話し合い、介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態や過ごし方を、ケースに記録し、申し送りや情報共有で、必要な支援を話し合い、見直ししている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望の変化、日々の状態から、その時に必要な対応を話し合い、実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣保育園の行事参加や、デイサービスの祭り、ホームでの夏祭り等、家族や地域の方々の協力を得ながら、地域での暮らしを楽しむことができるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	サービス利用前の受診状況と協力病院への受診、本人と家族の意向を聞き、希望する医療機関へ受診できるようにしている。	利用時に本人と家族の意向を確認し、協力病院の説明を行っている。いつでも希望する医療機関へ受診できるよう事業所と医療との連携を図り、利用者へ適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム看護師にいつでも相談できる体制になっており、状況、状態によっては早急な受診に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関から本人の状況、状態の説明をいただき、把握に努めている。退院後の生活についても、主治医に相談しながら対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化において、家族や医療機関とも連絡しながら支援しているが、十分な対応が困難となったときは、家族とも相談したうえで、他施設入居となる場合もある。	現在、看取り介護は行われていないが、入居の際、本人・家族に説明が行われている。グループホームでの対応が困難な状態になった際は、本人・家族の意向の確認を行い、医療機関と話し合い、他事業所を紹介するなどの対応が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故に対し、看護師より対応法を聞くほか、救急講習を受け、実践力を身に付けるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施、うち1回は夜間想定で行っている。また、近隣保育園にて消火訓練の実施。運営推進鍵にて、地域の方々への協力依頼をしている。	避難訓練は年2回実施され、運営推進会議においても町内会長等への協力依頼がされ、参加者と共に避難訓練が実施されている。緊急連絡通報装置により、協力委員及び全職員に連絡が伝わる設備が整っている。法人として災害時の備品の確保がされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者1人1人の性格や状態、生活歴を把握し、その人、その場面に合った声掛けで対応している。	事業所では、職員採用時に個人情報保護に関する誓約書が作成されている。利用者個々の性格や状態に合わせた、声掛けの声のトーン・アクセントを使い分け、一人ひとりを尊重された対応が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が思いや希望を出せるよう、状況や表情を読み取り、自己決定できるような声掛けで対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の過ごし方や、体調の把握に努め、個々のペースで過ごせるよう、職員間で情報を共有し、その人らしい生活支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の希望や好みを知り、その人らしく楽しめるようにしている。また、理、美容も定期的に利用し、本人の希望に沿うようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々のできる力を活かし、できる範囲で一緒に準備をしている。ホーム畑で収穫した季節の野菜をメニューに取り入れ、食事を楽しんでいる。	グループホームの畑で野菜を利用者と共に栽培し、草取り・収穫を行い、自分達で野菜の選別、皮むきなどを行っている。利用者の一人ひとりのできる力を活かし手伝いを行っている。又、献立には、利用者の要望を定期的に取り入れメニューが作成されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態を把握し、状況の変化を職員間で話し合い、その人に合った支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアと、定期的な義歯洗浄で清潔を保てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄回数の確認、本人の排泄パターンを把握し、事前誘導し自立に向けて支援している。	生活記録に排泄状況を記録し、排泄パターンを把握し、利用者に合わせた排泄誘導がされている。尿意のない方は、定期的に誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動の取り組み、便秘傾向の方は主治医と相談し、便秘の改善を図っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	入浴日は決まっているものの、希望に対応できることを、家族や本人にも伝えており、状況や状態により、その人に合った支援をしている。	週2回の入浴日は決まっているが、温泉が引かれているため、状況に応じていつでも対応できる体制が整っている。入浴できない場合には全身清拭・手浴・足浴で対応し清潔保持に努めている。菖蒲の花を湯船に浮かべ、日本伝統の入浴方法も取り入れ入浴を楽しんで頂けるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠状態を把握し、その人に合った状況で休めるよう、声掛け・誘導をしている。状況の変化にも対応できるように、職員間で状態確認し合っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診の状況や記録を、個人受診記録にまとめており、全職員が確認できる体制をとっている。内服変更時も記録他、申し送りで周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人、家族の情報からその人に合った役割を見出し、楽しみを持ったり、気分転換を図れるように、支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や野外レクで楽しめる環境をすることで、気分転換を図っている。また、地域のお店に買い物に出かける等、楽しみを持てるように支援している。	二か月に一回の季節に合わせた外出や誕生月の外食が行われている。併設の保育園の招待を受け、園児と地域の方と一緒に外出する事も多くある。家族と連携を取り外泊・外出支援も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人のできる範囲で対応。自分で支払いができるよう、付き添い支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は電話できるように、家族に相談し確認を取り支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者同士良い関係で過ごせるよう、テーブルや椅子の位置を変えたり、その時の状況で対応。季節の花を飾ったり、四季を感じて過ごせるようにしている。	食堂とホールはカウンターで繋がっている為、食事の準備の音・匂いを感じる事ができる。ホールには椅子に座るだけではなく、横になれるスペースもある。外出等の写真を飾り、会話に用いたり、季節の花を飾ったり、熱帯魚を飼育し利用者がお世話をしたりと生活を感じる事ができる支援ができています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の様子や、表情から状況を判断し、共有空間で気持ち良く過ごせるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人家族と相談し、飾りつけを一緒に行うなど、希望を取り入れながら心地よく過ごせるように工夫しています。	入居の際、本人・家族と相談しレイアウトを考え、自宅で使い慣れた手作りの人形や好みの写真が置かれ安心して生活できる環境となっている。レイアウトを変更する場合は、利用者の状況に応じて、本人・家族と相談し行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全と個々の身体機能を活かせるよう、手すりの設置、トイレや居室がわかるように工夫しています。		